

庭木に利用する樹種の特徴と管理

～ シラカシ ～

(一社)日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村正史

シラカシは街路や公園などの緑化木としてよく使われており、成長すると20m程度の高木になりますが、剪定に強いという特徴があるため庭木や生垣として利用されている樹木でもあります。今回はシラカシを紹介합니다。

1 特徴

ブナ科コナラ属の樹木で、冬も葉をつけている常緑樹です。名前は、材が白色であることに由来しているとされています。日本では福島県以西に、朝鮮半島では南部にそれぞれ分布し、照葉樹林を構成する樹種の1つです。

葉は5～12cmの長楕円形でやや厚く、葉の縁にはあまり目立たないものの緩やかなギザギザがあり、表面は光沢のある緑色で、裏面はウラジロガシほど白くはありませんが、白みを帯びた緑色です(写真1、2)。10月頃にはドングリがなります(写真1)。

若いうちは日陰に耐え、成長が早い樹木です。病害虫に強く、刈り込みにも強いので、防風樹、防火樹、生垣、公園樹、街路樹、庭木として利用されます。材は固くて重く、弾力に富み、器具類に利用されます。薪としても利用されます。

2 維持管理

広い庭では放任でもよいのですが、狭い庭では高さや幅を抑えて形を整える剪定が必要です。また、生垣として利用する方法もあります。写真3は富山県中央植物園の周囲の一部で植栽されているシラカシの生垣です。枝葉がよく繁茂していますので、一定の高さと幅を保つには剪定が必須です。11月または4月

の剪定は強く刈り込みますが、6～7月の剪定は徒長枝を軽く刈り込む程度で済ませます。自力でも可能ですが、造園業者さんに依頼すれば仕上がりが非常に良くなります。

シラカシは病虫害に強いのですが、目立つ被害として紫かび病(写真2)とこぶ病(写真4)があります。前者はうどんこ病の仲間で、葉裏に始め汚白色の菌そうができ、これは次第に褐色から濃褐色に変わるとともに厚さをまして、ビロード状になります。病葉の葉表は菌そう部分が黄緑化してよく目立ちます。後者は、根頭がんしゅ病細菌が地際部に感染してこぶを形成し、その中で増殖した細菌が幹に移動し、傷を受けた細胞で増殖して、二次的に写真4のようなこぶができます(樹木医の仲間からの情報です)。どちらも見た目はよくありませんが、シラカシの樹勢を弱めるようなことはないようですので、安心してください。



写真1 シラカシの葉(左)とドングリ(右)



写真2 紫かび病の被害葉
(左:葉表、右:葉裏)



写真3 シラカシの生垣



写真4 幹にできたこぶ病